

市民協働推進課

■第14回男女共同参画推進市民会議録

日時	平成20年9月8日(月) 午後7時～9時
場所	武蔵野商工会館講座室
出席者 (敬称略)	委員 岩城末子、大橋仁、小澤和彦、小野公一、工藤阿貴、千田有紀、高田素子、林朋子、三上かおり、吉川良子 事務局 男女共同参画担当職員、男女共同参画推進市民会議ワーキングスタッフ 傍聴者 4名
議題	1 各担当より報告書案の発表 2 その他
議事要旨	(各担当者より報告書案の発表) ・基本目標Ⅱ 人権尊重のための支援体制の確立について 課題Ⅱ－1 女性の人権を守る相談体制の強化 2 あらゆる暴力の防止(DV対策など) 3 生涯を通じた男女の健康支援 ・基本目標Ⅲ 男女共同参画の意識の形成 課題Ⅲ－2 情報収集・提供システムの整備と強化 施策の方向 むさしのヒューマン・ネットワークセンターの広報活動のあり方について ・基本目標Ⅳ 男女共同参画計画の推進体制の整備 課題Ⅳ－2 計画推進体制の整備と強化 施策の方向 むさしのヒューマン・ネットワークセンターの充実について

(各委員からの意見)

- 相談については、それぞれの内容が分かりづらいので、もう少し工夫が必要ではないか。
- DV対策には、支援する側の安全確保も必要である。
- 相談窓口の相談員をどのように養成していくかということは重要課題であり、時間がかかっても実現させたい。
- 相談には精神的な問題に関するものも多い。どのような相談体制にするかは、今後の課題だ。
- 乳がんは年間一万人の人が命を落とす癌であり、早期発見によりかなりの治療効果がある。若年層の乳がん検診のあり方と周知方法を検討する必要がある。
- 子宮がん検診については、個別通知の強化と、「まなこ」を有効に活用してのPRがよい。
- 学校教育を通じて正しい性や身体に関する情報提供を行うことにより、生涯にわたる問題意識を持つことができる。
- その際は、専門家によるレクチャーやワークショップを開くことにより、地域に開かれた意識づくりができるのではないか。
- 健康支援に関しては、どこで何が行われているのかということを知りさせることも必要だ。
- レディス手帳について、むさしのヒューマン・ネットワークセンターで原案を作れないか。
- 父子手帳については、母体についての知識を父親に知らせるとともに、父親用としてきちんと届くような工夫が必要である。
- 男女共同参画計画の推進体制の中でも、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの位置づけを明確にすることが必要である。

(次回以降のスケジュール)

- ・ 報告書案について各担当より発表をし、議論していく。
- ・ 全体の構成や、すり合わせについては、主担当の方々と委員長、事務局で小委員会を持ち、調整していく。
- ・ 全体案について、全体での意見を調整する。

<次回の市民会議>

市長との懇談

基本目標Ⅳの各担当より、報告書作成の成果を発表していただき、議論

	していただく。
次回	平成 20 年 9 月 29 日(月) 午後 7 時～ 武蔵野商工会館第1・2会議室